

「公立高等学校入学者選抜制度の改善（素案）」に対する
県民意見募集（パブリックコメント）の結果の概要について

1 県民意見募集（パブリックコメント）の期間、人数及び件数

意見募集の期間	令和元年9月18日（水）～令和元年10月17日（木）
意見をいただいた人数及び件数	合計 755名（1,545件） 教員（210名，458件） 保護者（185名，386件） 児童生徒（175名，325件） 教育関係職員（46名，109件） その他（116名，208件） 記入なし（23名，59件）

2 県民意見募集（パブリックコメント）の結果（概要）

内 容	主な意見（概要）	県の考え方（概要）
選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）の一本化	<p>○選抜（Ⅰ）は、受検が早く終わった人の学習量の低下につながる。推薦基準も曖昧で合格の基準も分かりづらい。</p> <p>○選抜（Ⅰ）がなくなると、受検できる回数が1回少なくなり、チャンスが減ってしまう。</p>	<p>■ 選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、入学者選抜の期間を短縮することにより、各学校の教育の充実を図ります。また、入学者選抜の実施内容等を明確に示すことなどにより、選抜の透明性や公平性の向上に努めます。</p> <p>■ これまでの選抜（Ⅰ）の趣旨を生かした選抜方法を導入し（「特色枠（仮称）」）、各高等学校・学科の特色に応じた入学者選抜の充実を図ります。また、「一次選抜」の合格者が入学定員に満たなかった学校・学科で「二次選抜」を実施します。</p>
特色に応じた選抜の拡充	<p>○学校や学科ごとに選抜方法の追加や傾斜配点を独自に決められることは、特色が出せて良いと思う。</p> <p>○学校や学科ごとに、学力検査と調査書の比重が変わると進路指導が難しくなる。また、生徒、保護者に分かりにくく、進路指導に間違いが起きやすい。</p>	<p>■ 「特色枠（仮称）」による選抜の区分を設けることにより、学校・学科の特色に応じた入学者選抜の充実を図ります。</p> <p>■ 各高等学校の入学者選抜の実施内容や配点を示すとともに、新制度の円滑な実施に向け、制度の周知方法などについて、工夫してまいります。</p>
自己PR書の作成・提出	<p>○自分を見つめ直し、進路について考えた上で、より良い学校選択ができる。部活動の成績だけではなく、自分自身が努力してきたことを伝えることができる。</p> <p>○文章で人に伝えることが苦手な人は、不利になると思う。病気、障害などで発信することが苦手な子供もおり、自己PR書を判断基準にするのはどうかと思う。</p>	<p>■ 15歳の生徒に、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を身に付けてもらいたいと考えており、受検者が作成する「自己表現カード」を活用した「自己表現」を導入します。</p> <p>■ 「自己表現カード」について、文章力など「自己表現カード」自体を評価することはありません。また、障害のある生徒などに対する合理的配慮の方法等について、検討してまいります。</p>

内 容	主な意見（概要）	県の考え方（概要）
全員面接の実施	<p>○これからの社会では、説明する力が大切なので良いと思う。高等学校側が生徒を知るために、面接を実施するべきだと思う。</p> <p>○どんなに練習しても、本番や人の前では、緊張して自分の本当の力を出せないかもしれない。話すことが苦手な子供は、不利になるのではないか。</p>	<p>■ 15歳の生徒に、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を身に付けてもらいたいと考えており、受検者が作成する「自己表現カード」を活用した「自己表現」を導入します。</p> <p>■ 「自己表現」については、単に上手く話せているなどのテクニックを評価するものにならないよう、「自己表現」を実施するねらいなどについて、しっかりと周知を図ってまいります。</p>
調査書の評定の対象学年	<p>○中学校1年生の時の成績を除外すると、子供の勉強意欲の低下につながると思う。内申書に占める1年時の成績の割合を、小さくするだけで十分ではないか。中学校3年間を総合的に見て成果を判断したい。</p> <p>○高校入試は、3年間でどれだけ学力が付いているかを見るためのものなので、1・2年生の成績はあまり重視しなくてもよいと思う。</p>	<p>■ 対象学年を第1学年から第3学年までとし、第3学年時における到達度を、より評価する観点から、学習の記録（評定）における学年間の比重を「第1学年：第2学年：第3学年＝1：1：3」とします。また、学力検査、調査書及び自己表現の比重を「学力検査：調査書：自己表現＝6：2：2」とします。</p>
調査書の記載情報の整理	<p>○評定以外の項目が、どのように合否に影響しているのか不明な点があり、内容も記入者や中学校により異なるため、記載情報は、必要最小限にすべきである。</p> <p>○部活動、ボランティアなどの3年間の頑張りを載せないのは、どうしてか分からない。</p>	<p>■ 文部科学省通知（平成31年3月）の趣旨を踏まえ、中学校が作成する調査書の記載内容は、客観的事項のみとします。これまで記載していた「特別活動の記録」などについては、受検者本人が「自己表現カード」に記述し、「自己表現」において表現（アピール）できるようにします。</p>
入学者選抜制度の改善の実施時期	<p>○中学1年生の時から必死に勉強してきたのに、それが評価されなくなることがショックだ。内申点にビクビクしながら学校に通っていて色々なものを犠牲にしてきたのに今さら悲しい。</p> <p>○中学校生活も半分が終わった時期に入試制度を変えられると、本当に戸惑う。変更するなら、これから中学校に入学する生徒を対象にしてほしい。</p> <p>○受検生、保護者、関係者に十分な周知の時間を設け、実施時期については慎重に検討してほしい。安心して受検に臨めるよう、丁寧な説明を行ってほしい。</p>	<p>■ 制度の改善は、令和5年度入学者選抜（現在の小学校6年生が対象）から実施します。あわせて、児童生徒が「主体的な学び」の意義等について、しっかりと理解をすることができるような取組を進めてまいります。</p> <p>■ 新制度の周知及び実施に向けた準備期間を十分に確保します。また、リーフレットの作成・配付など、様々な機会を通じて、新しい制度の周知を図ってまいります。</p>